

アルテピア

社団法人 北海道美術館協力会

札幌市中央区北2条西17丁目 TEL・FAX 011-644-4025

http://www.artepia.or.jp



三岸好太郎 《飛ぶ蝶》

1934年 油彩・板 121.2×84.9cm (北海道立三岸好太郎美術館蔵)

画家が31歳という短い生涯の最後の年に描いたものである。右上の1頭がピンをはねのけて舞い上がろうとしている不思議な作品である。

よくご質問をいただくのは、「これらの蝶は実在する種かどうか」ということだ。昆虫に詳しい方々の答えはノーであった。このほど蝶を長くご研究されている伊藤邦昭氏にお会いする機会があり、同じ質問を投げかけてみたが、やはり同様のご意見であった。発生源としては、当時調査がすすみ、日本でも学校等で多くの標本が見ることができた台湾の蝶あたりの可能性があるという。そこで台湾の蝶の標本や、研究書を見せていただいた。たしかにハツとするような、三岸作品との共通部分を感じさせる蝶の姿が随所に見出される。

三岸が当時話をきいたという北大の昆虫学者・松村松年博士の本も見せていただいた。細密に手描きされた挿図が銀色のインクを含む多色で印刷され、美しく輝いていた。しかしいずれにも、この三岸作品と見比べてぴったりと一致するものはなかった。

一中時代に標本描きのアルバイトをしていたという三岸。芸術に傾斜し、時に実物を無視した彼の図は、何度も描き直しを命じられていたという。〈飛ぶ蝶〉を描きながら、画家の脳裏には昔の記憶がよみがえったに違いない。ここぞとばかり、さまざまな特徴を自在にとり入れた蝶を創作し、色も次々塗り変えたりしながら、この夢の一枚を仕上げたのである。

(北海道立三岸好太郎美術館学芸員 苫名直子)

国立エルミタージュ美術館所蔵

# 皇帝の愛したガラス

～ヨーロッパからロシアへ ガラスの美 500年～

北海道立近代美術館 学芸第二課長 苦名 真

ロシアのサンクトペテルブルクにある国立エルミタージュ美術館（図1）は、ロマノフ王朝の栄華を彷彿させる壮麗な宮殿建築とその膨大な所蔵品によって世界屈指の美術館に数えられています。そのガラスコレクションも世界有数の質と量を誇り、ヨーロッパ各地、各時代の特徴的な形状や技法を

網羅した最高レベルの作品が収められています。これは18世紀半ば以降、歴代ロシア皇帝、皇族、名士によって収集されてきたもので、その総数は2000点を超えています。本展は、このなかから精選した約190点の名品によって、国立エルミタージュ美術館ガラスコレクションの全貌をご紹介します。ルネサンス期に花開いたヴェネツィアン・グラスからボヘミア、イギリス、スвей



(図1) <国立エルミタージュ美術館内観>

ンを経て19世紀末フランスのオール・ヌーヴォー様式へといたるヴァラエティ豊かなガラスの歴史をたどるとともに、18世紀以降、ロシア帝室ガラス工場で製造され、宮廷を華麗に彩ったインテリアなど、皇帝の愛したガラスの数々をご覧ください。

## 15世紀末～18世紀のヨーロッパガラス

最初のコーナーではヴェネツィアをはじめとする15世紀末～18世紀のヨーロッパガラスをご紹介します。この作品（図2）は16世紀

初めのヴェネツィアン・グラスの名品。巡礼者用水筒を模した乳白地のガラス器に、エナメル彩と金彩によって神話の情景が施されています。1885年に皇帝アレクサンドル三世が自らの裁量で購入したものです。このほか、16世紀から18世紀にかけてボヘミア、ドイツ、フランス、スペインの各地で制作されたガラスをご紹介します。

## 19世紀～20世紀のヨーロッパガラスと装飾品

このコーナーでは、19世紀に制作されたイギリス、フランス、オーストリア、



(図2) ヴェネツィア  
<<アポロンとキューピッドの物語の一場面を描いた  
巡礼者用水筒を模した花瓶>>  
1510～1520年

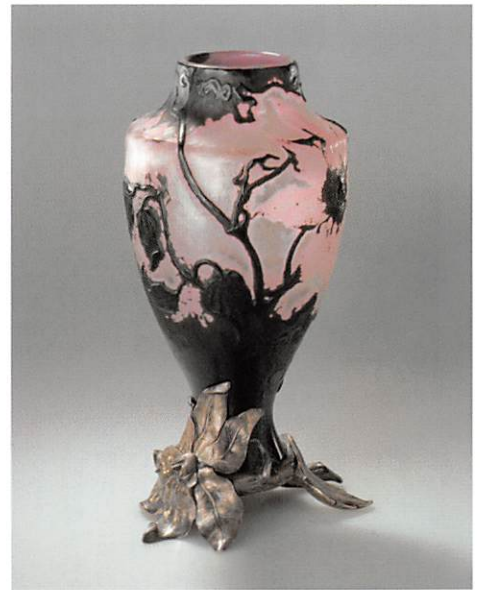
ボヘミア、ドイツのガラスや装飾品、さらに19世紀末から20世紀初頭にかけて花開いたアール・ヌーヴォー、アール・デコのガラスを紹介します。

この作品(図3)はアール・

ヌーヴォーを代表する工芸家ガレによるガラスに、ロシアの著名な金細工師ファベルジェが銀製の台座を取り付けたもの。悲劇的な死を遂げるロマノフ王朝最後の皇后アレクサンドラ



(図4) ロシア帝室ガラス工場  
《メダイヨン：大公アレクサンドル・パヴロヴィッチ  
(アレクサンドルー世)の肖像》1794年



(図3) エミール・ガレ  
《クレマチスの花と葉、巻きつく茎を表した花器》1896年

図1～図4 © Texts, photos, The State Hermitage Museum, St. Petersburg, 2011

フョードロヴナが所蔵していた作品です。

### 18世紀～20世紀初頭のロシアガラス

ピョートル大帝をはじめとする歴代ロシア皇帝はガラス製品に大きな関心を持ち、1777年には女帝エカテリーナ二世によってペテルブルグに帝室ガラス工場が設立されました。以来、そこで制作されたガラス工芸がロマノフ王朝の宮廷を豪華に飾るものになります。王朝の威信をかけて作られたガラス器や装飾品は、いずれも日本で初めて公開されるものです。

この作品(図4)は1794年に帝室ガラス工場で作されたもの。乳白色と群青色の2層ガラスを丁寧削り、アレクサンドル・パヴロヴィッチ大公(後のアレクサンドル一世)の横顔を浮き彫りにしたメダルです。

### 関連事業のご案内

展示会をより深くお楽しみいただくための関連事業をいくつかご案内します。エカテリーナ二世が活躍した18世紀ロマノフ王朝の宮廷音楽を明楽みゆき氏のチェンバロで再現するコンサートを6月11日(土)の午後3時から当館1階ホールで開催します。また、エルミタージュ美術館を舞台に、ロマノフ王朝300年の盛衰を華麗に描いた映画「エルミタージュ幻想」(図5)を6月25日(土)、7月2日(土)の午前11時と午後2時から当館講堂で上映します。いずれも入場無料ですのでぜひ展示会とあわせてお楽しみ下さい。

道立近代美術館では6月2日(木)から7月3日(日)まで「国立エルミタージュ美術館所蔵 皇帝の愛したガラス」展を開催します。



(図5) 映画「エルミタージュ幻想」より

近代美術館

むじやきなコレクツヨム

美術のなかの子どもたち  
6月2日(木)～6月11日(日)

あどけなく、かわいらしい表情、邪心のないふるまい。小さな子どもたちの存在が私たちの目や心をとらえて離さないのはなぜでしょう？ 自らの幼少期の記憶と重ねあわせるためでしょうか。それとも、もともと根源的に人間の純粹で無垢な状態を、「子ども」の姿に見いだすためでしょうか。

美術作品においても、こどもの姿は多くの作家によってとらえられてきました。そこには、描く対象としてだけではなく、自分自身

のなかにある子どもを見つめるまなざしが、同時に存在しているのかもしれない。

この展覧会では、こどもをモチーフとした作品をはじめ、童話の場面のようなイメージや、作者の童心をうかがわせる表現などをとりあげます。絵画や版画、立体造形など、多彩な分野の作品により、こどもがもつ愛らしさや純真さへとつながる世界にご案内します。



田中針水〈子供之図〉1967年  
北海道立近代美術館蔵

三岸好太郎美術館

三岸好太郎の世界「蝶の夢」

4月1日(金)～6月5日(日)

三岸好太郎は、その短い生涯の晩年に蝶を集中的に描いています。蝶が標本箱から飛び立ち、海を渡り、ヒマラヤ杉の林をこ



三岸好太郎  
『筆彩素描集 蝶と貝殻』より(ヒマラヤ杉と蝶)  
1934年

えて雲の上まで舞い上がる光景は、まさにこの画家の夢の世界といえるでしょう。またそこには多くの謎があります。なぜそれほど蝶にこだわったのか、描かれたのは実在種なのか、そこには画家の個人的な思いや当時の美術状況などさまざまな背景があるようです。

今回は蝶を長年研究されてきた伊藤邦昭氏のご協力により、三岸作品とともに実際の蝶の標本などもご紹介し、その謎の一端にせまります。あわせて三岸生涯の代表作もご覧いただけます。会期中、「図書コーナー」では蝶に関する絵本や図鑑を閲覧いただけます。また「つくるのだいすきコーナー」では美しい色模様の紙で作られた蝶を素材にカードづくりなどをお楽しみいただけます。蝶の夢にひととき遊んでみてはいかがでしょうか。

旭川美術館

北欧の美しいくら

LIFE&DESIGN  
6月1日(水)～7月3日(日)

素材を生かした温もりあふれるデザインやシンプルで機能的なデザイン。独自の光彩を放つ北欧デザインは日本にも大きな影響を与え、高い人気を誇っています。本展では、厳しくも美しい大自然の中で豊かな日常を過ごすために生みだされてきた家具や食器の名作など、北欧モダンデザインの黄金期といわれる1950～60年代を中心とした家具やクラフト作品に焦点をあて、その魅力を紹介します。出品作は椅子研究で知られる織田憲嗣氏(東海大学教授)のコレクション。ウエグナーやパントンの名作椅子はもちろん、洗練されたガラスや陶などのテーブルウエアー、木製玩具など、日常を彩る名品約300点を紹介します。

北欧のデザインが堂々に会える夢のリビング・ダイニング。多彩なイベントとあわせて北欧デザインの魅力を堪能し、ミュージアムショップで美しい日用品をみつけてください。



(左上)ボイエセン「ツノボトリ」1954年 (右上)パントン「コーン・チェア」1958年  
(左下)ウエグナー「ピーコック・チェア」1947年 (右下)キストコー「両手鍋」1954年

函館美術館

〈開館25周年記念〉

金子鷗亭と現代書の新風  
5月29日(日)～7月10日(日)

深く古典と向き合うなかから、「近代詩文書」を創出して、現代書に新たな世界を切り開いた書家・金子鷗亭(1906～2001)は、常に書の本質をみつめて、時代の息吹とともに幅広い書風を展開し、「芸術は変化があるのみ」とも語って、絶えず新たな境地を求め続けました。その現代書の巨匠金子鷗亭の没後10年を記念し、その多彩な書風の代表作とともに、現在の書道界に新風を吹き込んでいく若い作家たちの意欲作(創玄書道会若手会員

約106名(20代～43歳)予定)を一堂に展示し、鷗亭が築きあげた書の世界と、それを新たな感覚で引継ぎつづ、さらに未来への変革を担っていく次代の書家たちの明日とを展望します。



金子鷗亭〈北原白秋詩 海雀〉1952年 函館市蔵(函館美術館寄託)

## 帯広美術館

### 十勝の美術クロニクル

7月1日(金)～9月7日(水)

帯広・十勝地方の美術は、1927(昭和2)年に現在まで続く「平原社展」が開かれ、本格的な幕開けを迎えます。戦後、能勢眞美が帯広に移住し、日本画では「萌木三」設立。昭和30年代に入ると、平原社だけでなく在京の画学生と帯広の若い世代を中心にした「ボデス展」や、教職員による美術グループ「荒土会」が創立されます。1970年代に入ると絵画グループ「芽」が生まれ、「寺島春雄賞」が設けられています。1980年代には公募展にとられない現代美術のグループ展が盛んに行われ、「1983―表出」、「サーキョレーシヨ

ン85」などを開催。一方で所属団体を横断する「帯広美術関係者連絡協議会」が発足し、「安井賞展」の誘致や公共施設のリニューアル制作、後の帯広への道立美術館建設につながっていきます。本展覧会では、数々の逸材に彩られた十勝の美術のクロニクル(年代記)をみていきます。



神田日勝《室内風景》1970年

## 釧路芸術館

### 佐川美術館所蔵

### 平山郁夫展―大唐西域画への道

5月28日(土)～7月18日(月・祝)

ユーラシア大陸の東西を結び、文化交流の歴史を担ったシルクロード。生涯を通じて各地を取材し描き続けたのが、現代日本画の巨匠・平山郁夫(1930―2009)です。広島県に生まれ、東京美術学校を卒業後、「仏教伝来」を原点に仏教やシルクロードを主題とする作品を次々と発表、ロマンたな壮大な絵画世界を築き上げました。自らの被爆体験から文化遺産の保護救済活動にも尽力し、1998年には文化勲章を受章しました。本展は、300点を越える平山作品の収蔵で知

られる佐川美術館(滋賀県守山市)のコレクションから76点の秀作を選び、深遠な魅力あふれる平山芸術の端を紹介するものです。メインとなる《大唐西域画》は葉師寺に献納された巨大な《大唐西域壁画》の全場面を4分の1の大きさで縮小制作し、その内容を間近に伝える晩年の代表作。7場面からなるこの大作を含め、道内初公開の作品が並びます。函館美術館(4月2日～5月22日)に引き続き、開催です。



平山郁夫《明けゆく長安大雁塔 中国》2007年

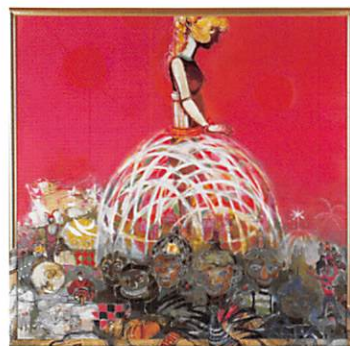
## 札幌芸術の森美術館

### 竹岡羊子展

カーニバル―虚構の宴に魅せられて

5月14日(土)～6月30日(木)

本年の「札幌の美術家シリーズ」は、およそ50年にわたり札幌を拠点に活動を続ける画家竹岡羊子を紹介します。竹岡が描き表す世界は「まつり」。イタリアのベネチア、フランスのニース、スイスのバーゼルなどヨーロッパを中心に世界各地のカーニバルに取材します。彼女が紡ぎ描く画面は、華やかな色遣い、踊る描線、沸き立つ熱気で溢れ返ります。まるで、狂乱的に生を謳歌する人々の渦に画家もまたその身を任せ、燃え上がる「虚構」の世界に陶醉しているかのようです。しかし、竹岡はそれだけにとどまりません。さらに深く潜り込み、享楽の向こう



竹岡羊子  
《SPRING TIME―希望という名のパレード》  
2001年

に透けて見える、人々の内奥に触れることをも試みます。表舞台を照らす光とその裏にある人間模様を、虚実をない交ぜにした濃密な色彩で浮かび上がらせる竹岡羊子の世界。200号の大型作品を軸にしつつ、旅先でのスケッチやカラーシユ作品によつて、作品制作の原点も紹介します。

## 本郷新記念札幌彫刻美術館

### とり・うま・なごも

―生きもの語り―

4月2日(土)～5月15日(日)

彫刻家・本郷新(1905―1980)には、1960年代に連作した彫刻《鳥を抱く女》があります。本郷が小学生の頃、家の近くで暴れる鶏をしつかり胸に抱きながら歩く少女と出会った記憶をもとに約50年後に《鳥を抱く女》は制作されました。連作した《鳥を抱く女》は、1962年に7点を制作し最終的には、野外彫刻を含めて14点の作品を制作するほど造形的に本郷を魅了したようです。ほぼ同じ時期に、馬と少年のふれあいをテ



本郷新《鶏を抱く女》  
1962年

マに《馬と少年》も制作しています。人体と他のものとの組合せは、様々な「かたち」の追求へと本郷を駆り立てたようです。《馬と少年》は彫刻だけではなく、レリーフや素描や油彩画などもあり、本郷のモチーフへの思いの強さを物語っています。本展では、本郷が人体以外の「とり・うま」や「ごも」などの作品を通して何を語らせなかったのか紹介いたします。

# MUSEUM CALENDAR

## 2011.4～2011.10

美術館の特別展覧会ご案内

	4	5	6	7	8	9	10
近代美術館	4/2～4/10 札幌ビエンナーレ 企画2011 アートから出て、 アートに出よ。 美術館が消える9日間	4/16～5/22 インカ帝国のルーツ 黄金の都 シカン展	6/2～7/3 国立エルミタージュ 美術館所蔵 皇帝の愛したガラス	7/15～8/21 故宮博物院展		9/12～1月末(予定) 改修工事のため休館	
美三岸術好太郎館	4/1～6/5 所蔵品展 三岸好太郎の世界 第1期 蝶の夢		6/10～8/21 所蔵品展 三岸好太郎の世界 第2期 道化・サーカス・人形劇		8/26～10/23 所蔵品展 三岸好太郎の世界 第3期 音楽のある美術館3		
旭川美術館	4/12～5/22 けんぶち絵本の館コレクション 世界の名作絵本原画が やってきた!		6/1～7/3 北欧の美しくらし LIFE&DESIGN -織田憲嗣コレクション-		7/16～9/9 ウッドワン美術館名品選 巨匠たちの饗宴 -日本近代絵画-		9/16～11/13 道立近代美術館の華 シャガール、バスキンコレクションと エコール・ド・パリの綺羅星たち
函館美術館	4/2～5/22 佐川美術館所蔵 平山郁夫展 ～大唐西域画への道～		5/29～7/10 開館25周年記念 金子鷗亭と現代書の新風		7/16～9/19 開館25周年記念 没後40年 田辺三重松展	9/22 ～ 9/28 第52回 北海道 書道展 函館展	10/8～12/7 開館25周年記念 陶酔のバリ・モンマルトル 1880-1910
帯広美術館	4/13 風景に、 浸る。 自然と、 遊ぶ。	4/22～6/22 ハウステンボス美術館・博物館所蔵 エターナル・ラビンス 無限迷宮 M.C.エッシャーの全貌		7/1～9/7 開館20周年記念 十勝の美術クロニクル		9/16～11/7 ウッドワン美術館名品選 巨匠たちの饗宴 -日本近代絵画-	
釧路芸術館	4/12～5/21 コレクション ギャラリー (仮称)		5/28～7/18 佐川美術館所蔵 平山郁夫展 ～大唐西域画への道～		7/24～8/28 佐々木秀明展 + アート5 (仮称)		9/3～11/7 釧路が育てた世界の画家 増田 誠展(仮称)
札幌芸術の森	2/6～5/8 森山大道展 北海道(最終章)		5/14～6/30 札幌の美術家シリーズ 竹岡羊子展		7/9～8/28 (仮称) メアリー・ブレアの 魔法の世界		9/3～10/23 開館25周年事業 森と芸術
札幌彫刻美術館	4/2～5/15 前期収蔵品展 とり・うま・こども -生きもの語り一展		5/21～7/10 開館30周年記念 抽象彫刻30人展 -北の作家たち-		7/16～9/4 開館30周年記念 具象彫刻30人展 -北の作家たち-		9/24～11/13 開館30周年記念 第15回本郷新賞受賞 記念彫刻展

東北関東大震災により被災された方々へ、心からお見舞い申し上げます。

社団法人北海道美術館協会

### 道立近代美術館の改修工事に伴う休館について

近代美術館は9月12日から翌年1月頃まで、改修工事を実施するため全館休業になります。このため、常設展・特別展はありません。

これに伴い売店が閉鎖されますので、来館しての会費の納入や会員証の交付等を行うことができなくなりますが、協力会事務局では従来通り会費納入、会員証交付等の業務を行っておりますのでご利用ください。なお、会費については郵便振替、銀行振込みもご活用ください。

また、他の道立美術館等は従来どおり観覧することができますので、今まで同様、北海道の美術文化振興のために、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 第52回学生美術全道展

平成23年10月2日～6日

市民ギャラリー

今年度は絵画、版画、彫刻、工芸の4部門に334点の応募があり、これらの作品の中から、おといねっぶ美術工芸高校3年生高沢皓さんの絵画『かたい床』が最高賞の全道美術協会賞・道美術館協力会賞に選ばれた。  
札幌出身の高沢さんは表彰式のスピーチで「寮生活を送るなか目標を同じくする仲間から刺激を受けながら作品を描けたことが良かった。絵を描くことが好きなので、将来は絵に関係する仕事につきたい」と将来の展望を語っていた。



全道美術協会賞・道美術館協力会賞  
受賞作品『かたい床』  
高沢 皓(おといねっぶ美術工芸高校3年)

## 第4回道展U21

平成23年2月10日～13日 市民ギャラリー

道展U21は、道内の美術を志す15歳から21歳の青年層を対象とする公募展(北海道美術協会主催)である。

協力会では昨年度より後援団体として参加し、優秀作品のひとつに「北海道美術協会賞」の贈呈を行っている。今年度は、札幌大谷大学短期大学部 河合春香さんの絵画『きみのひとみのむこうがわに』に受賞の盾を贈呈した。



道美術館協力会賞 受賞作品  
『きみのひとみのむこうがわに』  
河合 春香(札幌大谷大学短期大学部)

## 近美から感謝状

法人設立30周年記念事業として、モテイリアー二作『フジタの肖像』を道に寄贈しましたが、このことに対して近代美術館から感謝状が贈呈されました。1月20日、展示中の作品の前で、相馬館長から吉野会長に手渡されました。



## 道立三岸好太郎美術館の観覧について

4月1日以降の観覧料については、近美の「これくしょん・ぎやらい」と、三岸美術館の所蔵展の双方を鑑賞する場合、次の料金で観覧できることになりました。

- 一般 800円(600円)
- 高校生 400円(270円)
- 大学生

( )内は10人以上の団体料金  
65歳以上、中学生以下、障害者手帳  
所持者については無料

## 新会員紹介

2010年8月～2011年2月(敬称略)

ご入会ありがとうございました

### 8月

札幌市 西村 肇  
" 松井 弘子  
" 齋藤 和男子  
" 横山 康子  
" 清水 仁生  
" 本多 禮子  
" 豊田 貴利子  
" 久保田 厚子  
小樽市 佐藤 伸之  
旭川市 小城 道子  
札幌市 NPO法人  
" かわり教室

### 9月

札幌市 土居 道子  
" 植村 邦生  
" 飯野 ゆかり  
江別市 山本 篤  
浦河町 松居 清治  
" 松居 照美

### 10月

札幌市 須貝 のりこ  
" 川上 匡江  
" 岩館 善行  
" 飯田 奈津子

### 11月

札幌市 河辺 善一  
" 長井 訓子  
" 芳村 朋子

### 12月

札幌市 新田 晋子

### 1月

札幌市 酒井 久美子  
" 大嶋 勝子  
" 浅井 サダ子  
" 山佐 山口和弥  
" 佐藤 義昭

### 2月

札幌市 中野 綾子  
" 塚口 朋子  
" 塚田 雅恵  
" 若松 真由美

## 「花ト蝶」の救出劇

昨年12月26日の道新一面のトップ記事にビックリ！4段抜きで「恩人41年ぶり判明」サブタイトルに「三岸好太郎の油彩 北大紛争から救出」とありました。

1969年、学生運動で荒れている北大教養部から、こっそりとバリケード封鎖を潜り抜け、三岸好太郎の油彩「花ト蝶」を当時の道立美術館に避難させた学生がいました。

この学生は誰であるか長い間知りませんでしたが、現在この絵画を所蔵する三岸好太郎美術館が探した結果、後志に在住の医師であることが判明したものの、非常時における適切な判断と勇気、そして絵画を愛する心がなんとも素晴らしい。この医師は学生運動で紛争中、建物を占拠していたこともあり、堂々と語れる美談ではないと語ったそうです。それにしても名乗り出ない奥ゆかしさに万歳だ。

## 第29回 海外美術研修

9月29日～10月6日



### ■北イタリア■ 美の宝庫を訪ねて



フィレンツェのドゥオモ（花の聖母寺）



ミラノのドゥオモ前でニコリ



ヴェニスでゴンドラに乗って

## 小学生を近美へ招待!

「こども美術鑑賞事業」が、法人設立30周年を契機に新規事業として実施されることになり、12月14日に札幌市北区の市立光陽小学校の6年生85名を近美に招待しました。

6グループに分かれて「モンパルナスの灯 エコール・ド・パリの群像」、「中江紀洋 時の彼方へ」をボランティア解説部員の説明により鑑賞。特別展・ミュージアム・トゥモロー2011「カラー・パワー! 色って不思議!!」展では、ワーク・シート「クイズにちょうせん」を楽しみました。



## アルテピア ニュース

## 絵本のおぼけ

### マールとあそぶ

子どもたちに近美と親しんでもらおうと、11月6日市内の小学生39人を招きジュニア・アートクラブが開催されました。

この日「おぼけのマール」の作者中井令さんの指導でクレヨンや水彩絵の具で、段ボールに公園や遊園地の絵を描き、それぞれの作品をつないで「街」を完成させました。



## 編集だより

- 東北関東大震災により、地震、津波、原発事故と未曾有の災害に見舞われました。多くの犠牲者や被災者に対し、心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。国を挙げて一日も早く復興されることを願ってやみません。
- さて、各美術館から寄せられた2011年度上期の特別展のラインナップは、バラエティーに富んでいて、函館や帯広、釧路、芸森では、地元出身画家や、地域の美術活動史など地域と密着したテーマでの企画もあり楽しみです。
- いつもながら皆様のご投稿をお願い致します。ハガキ、FAX何でも可。アルテピア編集室までお寄せください。(S)

## 「ガラパゴス化」

閉じた地域内で自己完結的に棲息・深化すること。鎖国の中で成熟した江戸文化もその類と言える。絶滅せずに海を渡った浮世絵、その斬新な構成と色づかいの出現は絵画史上ルネッサンスに匹敵する影響をもたらしたと言われている。

世界標準などお構いなく、ひたすら日本人の好みで作り込んだアニメなどが、いま海外から関心を持たれている。新しいジャポニズム到来のため応援したい。ホコ天でのコスプレ禁止は写楽潰しに匹敵。(U)

## ひとくち メモ